

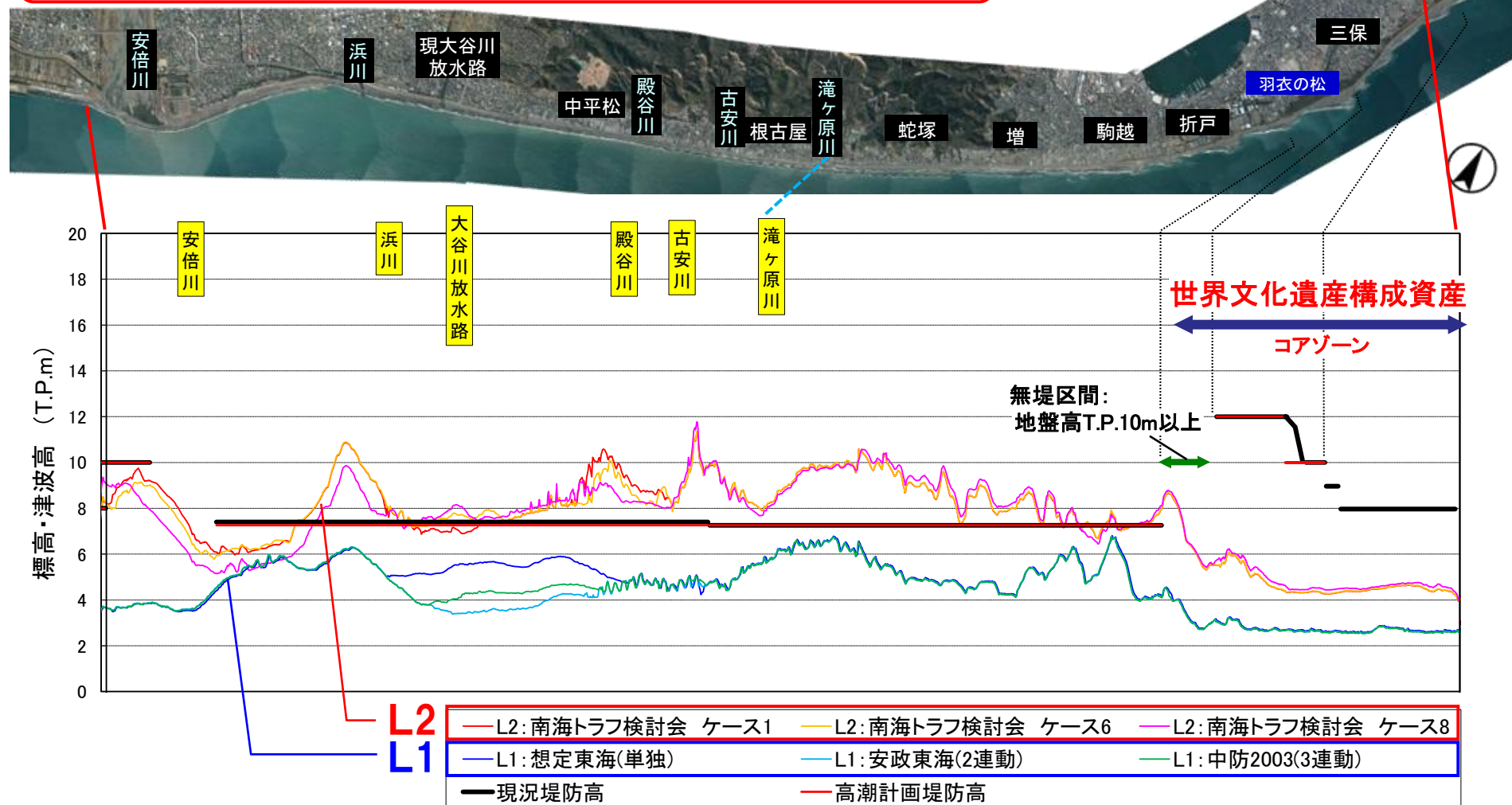
第4次地震被害想定における2つのレベルの津波(L1・L2津波)

◎レベル1津波 (東海地震～東海・東南海・南海地震の津波)

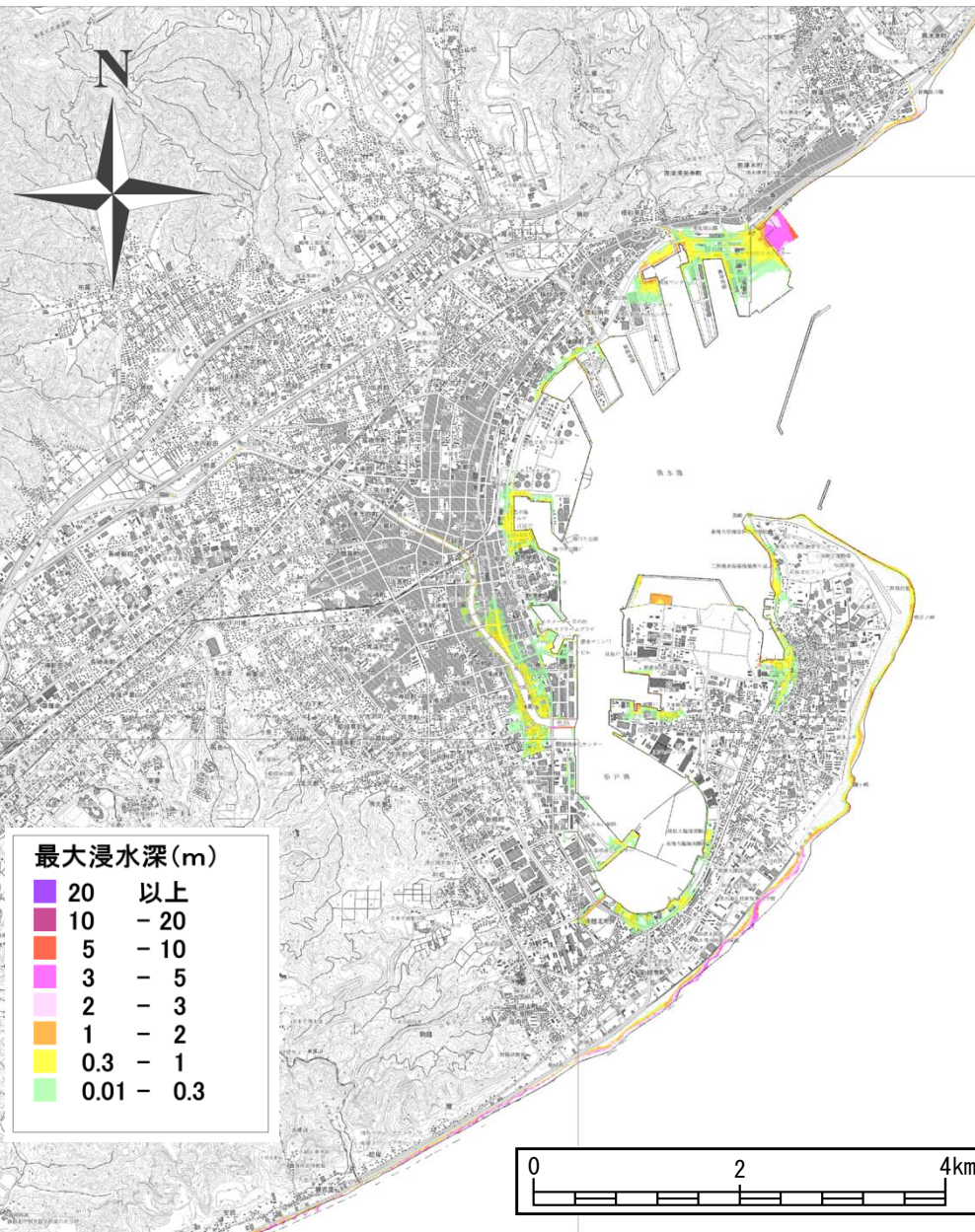
- 発生頻度は比較的高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波
- 海岸堤防等の整備の基準となる津波

◎レベル2津波 (南海トラフ巨大地震の津波)

- 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波



レベル1津波：東海・東南海・南海地震 最大浸水深図(m) 15 静岡市清水区

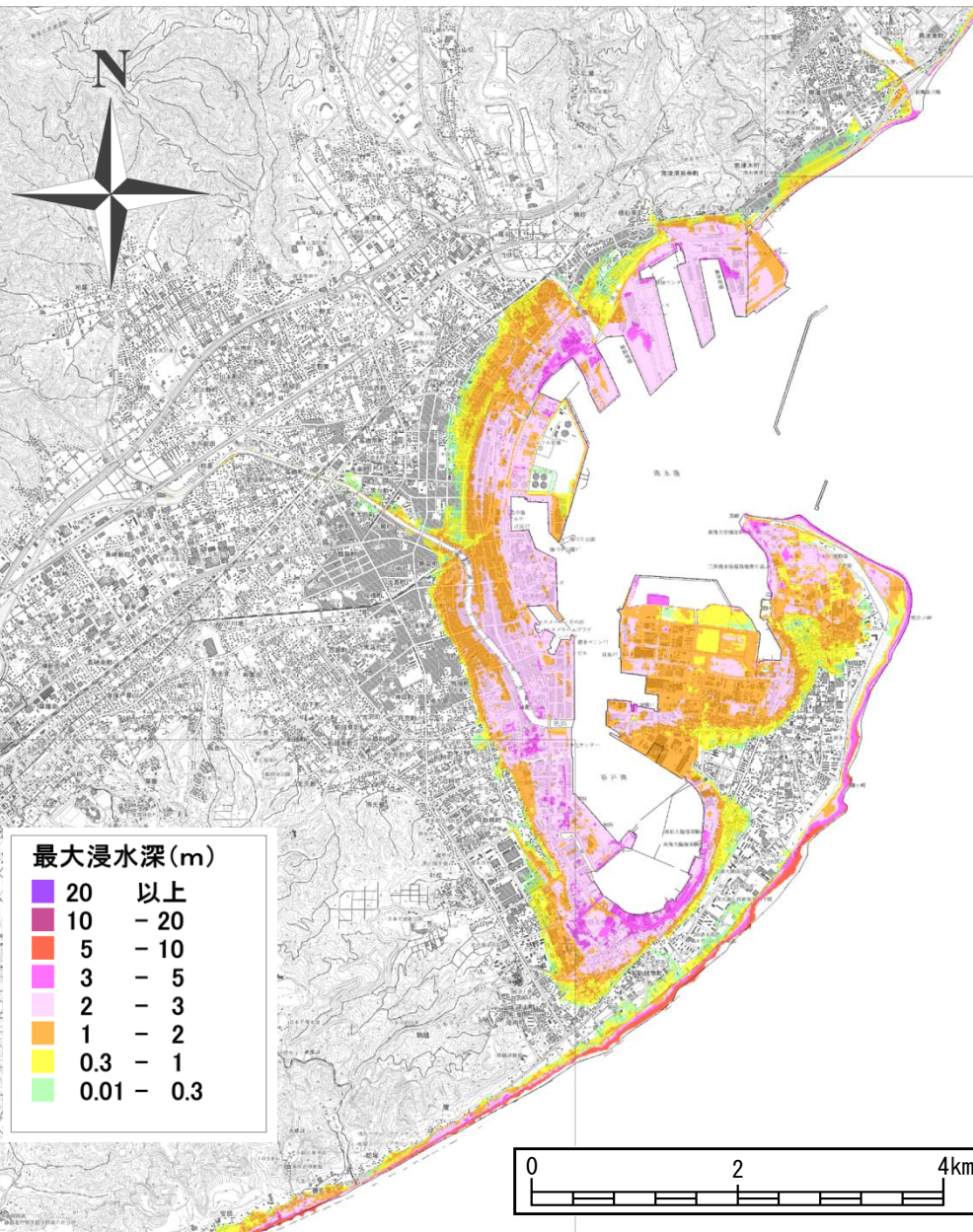


【留意事項】

- 本資料は、レベル1の津波が次のような条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
 - ・ コンクリート製の海岸堤防や河川堤防のうち耐震性の低いものは地震動により破壊されるという仮定をしています。
 - ・ 土で築造された海岸堤防や河川堤防のうち耐震性の低いものは地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。
 - ・ 上記以外の海岸堤防や河川堤防においても、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。
- ※ 上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上での事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れたり、津波が乗り越えることによって破壊されるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。
- 過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないとされた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。
- 本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平24情使、第244-GISMAP31012号）

レベル2津波：南海トラフ巨大地震（ケース⑧）最大浸水深図(m) 15 静岡市清水区



【留意事項】

- 本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
 - ・ コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されたという仮定をしています。
 - ・ 土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。
- ※ 上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したのですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないとされた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。
- 本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平24情使、第244-GISMAP31012号）